



## CHAPTER 5

# Cisco IPICS ディスパッチャのタスク

Cisco IPICS ディスパッチャは、仮想トーク グループ (VTG) の設定、VTG のアクティブ化による会議の開始、非アクティブおよびアクティブ VTG でのメンバーまたは参加者の追加または削除を担当します。また、必要に応じて、アクティブ VTG の監視、参加者へのアクティブ VTG に関する通知、IDC ユーザの消音と消音解除も行います。

さらに、ディスパッチャは、ポリシーを管理します。各ポリシーは特定の時間に VTG をアクティブにし、指定時間が経過したら非アクティブにします。ポリシー管理作業は、Cisco IPICS Administration Console の [Policy Engine] タブで行います。ポリシー エンジンの詳細については、[第 8 章「Cisco IPICS ポリシー エンジンの設定と管理」](#) および [第 6 章「Cisco IPICS ポリシー エンジンの使い方」](#) を参照してください。



(注)

特定の ops ビューに属するディスパッチャまたはオペレータだけが、その ops ビューに関連付けられているポリシーを作成、編集、または削除する必要があります。ディスパッチャまたはオペレータが、別の ops ビューに属するポリシーを変更すると、ユーザがポリシーを表示したときに不整合が生じることがあります。詳細については、[第 6 章「Cisco IPICS ポリシー エンジンの使い方」](#) および [第 8 章「Cisco IPICS ポリシー エンジンの設定と管理」](#) を参照してください。

Cisco IPICS ディスパッチャの作業は、Administration Console の [Virtual Talk Groups] ウィンドウから実行します。このウィンドウにアクセスするには、[「Administration Console へのアクセス」\(P.1-15\)](#) の説明に従って、Administration Console にログインします。[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。



(注) [Virtual Talk Groups] ウィンドウにアクセスするには、ディスパッチャのロールが割り当てられている必要があります。



(注) Cisco IPICS では、一度に複数のディスパッチャがシステムにログインできません。このような状況では、1 人のディスパッチャが VTG にコミットするユーザ、チャンネル、またはグループが、別のディスパッチャにも必要な場合があるので、ディスパッチャ間で調整が必要です。Cisco IPICS の操作ビュー（「ops ビュー」とも呼ばれる）には、この状況を処理する機能があります。この機能を使用すると、ディスパッチャには、特定の ops ビューに割り当てられている VTG 参加者しか表示されません。ops ビューの詳細については、第 7 章「Cisco IPICS 操作ビューの設定と管理」を参照してください。

## VTG の管理

VTG を使用すると、さまざまなチャンネル上の複数の参加者が 1 つのマルチキャストアドレスを使用して通信できます。VTG の参加者には、ユーザ、ユーザグループ、チャンネル、チャンネルグループ、および他の VTG を含めることができます。アクティブ VTG はイベントとも呼ばれ、参加者全員が相互にライブ接続します。

非アクティブ VTG を作成して、VTG を編成できます。この VTG を使用して、アクティブにしたときに通信できる参加者を手配します。必要な数の非アクティブ VTG を作成して、必要に応じてアクティブにできます。

VTG をアクティブにした後、ユーザ、チャンネル、他の VTG の追加や削除、VTG 参加者への通知とダイアルアウト、IDC ユーザの消音と消音解除を行って、VTG を簡単に管理できます。

この章では、VTG の管理方法について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- 「非アクティブ VTG の管理」(P.5-6)
- 「アクティブ VTG の管理」(P.5-16)
- 「検索ユーティリティの使用」(P.5-36)
- 「VTG 管理のベストプラクティス」(P.5-38)

VTG の管理タスクは、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスする方法など、ウィンドウの詳細については、「[Virtual Talk Groups] ウィンドウの概要」(P.5-3) を参照してください。関連情報については、「VTG 管理のベスト プラクティス」(P.5-38) を参照してください。



(注)

一部の VTG 管理タスクは、IDC で実行できます。詳細については、リリース 4.0 の『*IPICS Dispatch Console User Guide*』を参照してください。

## [Virtual Talk Groups] ウィンドウの概要

Cisco IPICS ディスパッチャは、[Virtual Talk Groups] ウィンドウでディスパッチャのタスクを実行します。[Virtual Talk Groups] ウィンドウには、Cisco IPICS に追加した各 VTG に関する情報が表示されます。

このウィンドウの下部には、Cisco IPICS VTG のリストと各 VTG の一般情報が表示されます。デフォルトでは、この領域にはすべての VTG が表示されますが、ウィンドウの上部で指定した検索条件と一致する VTG だけを表示することもできます。



(注)

ウィンドウ右上にある [Rows per page] ドロップダウンリストから、結果ページの 1 ページあたりに表示する VTG の行数を指定できます。結果ページ間を移動するには、ウィンドウ下部にある矢印をクリックし、[Go] をクリックします。

## VTG の管理

表 5-1 では [Virtual Talk Groups] ウィンドウのフィールドについて説明します。

表 5-1 [Virtual Talk Groups] ウィンドウのフィールド

フィールド	説明	参照先
<b>フィルタ</b>		
[VTG Name] フィールド	このフィールドでは、入力した文字列 (大文字と小文字は区別されません) で始まる VTG 名だけを検索できます。	VTG の表示を制限したり、特定の VTG を表示したりするには、フィルタ フィールドに必要なフィルタ条件を入力し、[Go] をクリックします。
[Go] ボタン	このボタンをクリックして、選択した検索条件に従って VTG を表示します。	
[Clear Filter] ボタン	このボタンをクリックして、フィルタ選択を削除し、VTG の空のリストを表示します。	
<b>VTG 情報</b>		
[VTG Name] フィールド	このフィールドでは、VTG に割り当てられている一意の識別名を指定します。	「非アクティブ VTG の管理」(P.5-6) を参照してください。
[Status] フィールド	VTG がアクティブか非アクティブかを示します。	「アクティブ VTG の管理」(P.5-16) を参照してください。
[Prompt] フィールド	音声ユーザ名が VTG に録音されているかどうかを示します。  このプロンプトは、ユーザが Cisco IPICS テレフォニー ユーザ インターフェイスにログインすると再生されます。  [Prompt] カラムでユーザの [Not Recorded] または [Recorded] リンクをクリックして、音声ユーザ名プロンプトを録音できます。[Prompt] カラムでリンクをクリックすると、[Spoken Names] ウィンドウが表示されます。	「プロンプトの管理」(P.8-11) を参照してください。
[Add] ボタン	このボタンをクリックして、新しい Cisco IPICS VTG を追加します。	「新しい VTG の追加」(P.5-9) および「VTG の変更」(P.5-13) を参照してください。
[Delete] ボタン	このボタンをクリックして、VTG を削除します。	「VTG の削除」(P.5-16) を参照してください。

表 5-1 [Virtual Talk Groups] ウィンドウのフィールド (続き)

フィールド	説明	参照先
[Change Status] ドロップダウンリスト	このドロップダウンリストから、VTG をアクティブにするか非アクティブにするかを選択します。	<a href="#">「VTG のステータスの変更」 (P.5-18)</a> を参照してください。
<b>表示コントロール</b>		
[Rows per page] ドロップダウンリスト	VTG リストの 1 ページに表示する VTG の行数を指定します。	<a href="#">「項目リストの移動」 (P.1-19)</a> を参照してください。
[Page] フィールド	特定のページの VTG を表示します。	
[<] (最初のページ) ボタン	VTG リストの最初のページを表示します。	
[<] (前のページ) ボタン	VTG リストの前のページを表示します。	
[>] (次のページ) ボタン	VTG リストの次のページを表示します。	
[>] (最後のページ) ボタン	VTG リストの最後のページを表示します。	

個々の VTG ウィンドウには、次の情報タブがあります。

- [General] タブ：このタブでは、VTG 名、説明、VTG のステータスなど、VTG に関する情報を管理できます。
- [IDC] タブ：このタブでは、IDC の属性を設定できます。
- [Participants] タブ：このタブでは、使用可能なリソースと現在の VTG 参加者の表示、VTG のチャンネル、ユーザ、他の VTG の追加および削除、VTG のアクティブ化と非アクティブ化、およびアクティブ VTG 内でのさまざまな作業を行うことができます。実行できる作業には、ユーザへの通知、特定の VTG 参加者へのダイヤルアウト、IDC 属性の有効化と無効化などが含まれます。

Cisco IPICS でユーザやチャンネルを無効にすると、アクティブ VTG から切断されますが、アクティブ VTG の [Participants] タブにはそのまま表示されます。そのユーザまたはチャンネルの右には青い X またはテキストのステータス、あるいはその両方が表示されます。無効にしている間に、ユーザまたはチャンネルの属性を変更できます。

[Virtual Talk Groups] ウィンドウにアクセスするには、「[Administration Console へのアクセス](#)」(P.1-15) の説明に従って Administration Console にログインし、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。



(注)

[Virtual Talk Groups] ウィンドウにアクセスするには、ディスパッチャのロールが割り当てられている必要があります。

非アクティブおよびアクティブ VTG の管理の詳細については、「[非アクティブ VTG の管理](#)」(P.5-6) および「[アクティブ VTG の管理](#)」(P.5-16) を参照してください。

## 非アクティブ VTG の管理

非アクティブ VTG では、ネットワーク リソースをコミットしたり、進行中の VTG に影響を与えたりすることなく、メンバ (ユーザ、PTT チャネル、および VTG) のさまざまな手配を行うことができます。ディスパッチャは、VTG をいつでもアクティブにして、VTG 参加者をライブ会議に参加させることができます。

VTG に関する情報は、[Virtual Talk Groups] ウィンドウに表示される VTG 名をクリックして表示できます。VTG に関する情報が別のウィンドウに表示されます。

非アクティブ VTG を変更しても、VTG をアクティブにするまで、システム リソースや参加者間の通信に変化はありません。アクティブ VTG に変更を加えても、VTG の元の属性は変化しません。

次の項からは、非アクティブ VTG の管理について説明します。

- 「[非アクティブ VTG 管理のガイドライン](#)」(P.5-7)
- 「[新しい VTG の追加](#)」(P.5-9)
- 「[VTG の変更](#)」(P.5-13)
- 「[VTG の削除](#)」(P.5-16)

VTG の管理タスクは、Administration Console の [Virtual Talk Groups] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスする方法など、ウィンドウの詳細については、「[\[Virtual Talk Groups\] ウィンドウの概要](#)」(P.5-3) を参照してください。

## 非アクティブ VTG 管理のガイドライン

VTG を管理している場合は、次のガイドラインに従ってください。

- Cisco IPICS ユーザは、VTG メンバのリストに何度も表示されることがあります。たとえば、ユーザは個別に追加されることも、1 つ以上のユーザグループの一部として追加されることもあります。VTG がアクティブになったとき、Cisco IPICS ではそのような場合も 1 人のユーザとして認識されます。
- [Users]、[Channels]、または [Radios] リストからユーザまたはチャンネルを VTG にドラッグしたとき、そのユーザまたはチャンネルが VTG 内のグループにすでに存在している場合、チャンネルまたはユーザは個別のユーザまたはチャンネルとして再度表示されることはありません。ユーザまたはチャンネルを VTG に個別にドラッグし、そのユーザまたはチャンネルを含むグループを追加した場合、そのユーザまたはチャンネルはグループ内でも個人としても表示されます。
- Cisco IPICS では、参加者のいない空の VTG を作成できます。空の VTG をアクティブにして、参加者を追加できます。
- VTG を別の VTG に追加すると、追加する各 VTG は、サブ VTG と呼ばれます。最上位の VTG をアクティブにすると、サブ VTG もアクティブになります。サブ VTG をアクティブにしても、最上位 VTG はアクティブになりません。
- VTG を、そのサブ VTG の参加者にしたり、結果的に VTG がグループする VTG を作成したりできません。たとえば、VTG-A を VTG-B に入れた場合、VTG-B を VTG-A に入れることはできません。

同様に、VTG-A にサブ VTG-D が含まれ、VTG-C にサブ VTG-D が含まれている場合、VTG-C を VTG-A に追加できません。

アクティブにするとオーディオループの原因となるチャンネルまたは VTG をアクティブにしようとする、Cisco IPICS によりこの操作が検出され、アクティブにできません。これらのチャンネルまたは VTG は、VTG リストで取り消し線付きで表示されます。

- 同じ VTG 内で、セキュリティで保護されたチャンネルと保護されていないチャンネルを混合させると、セキュリティで保護されていないチャンネルのユーザがセキュリティで保護されたチャンネルのユーザの声を聞けるようになるため、この設定はお勧めできません。
- [VTG Management] > [Virtual Talk Groups] ウィンドウから特定の VTG をクリックすると、参加者情報が表示されます。ここから、Cisco IPICS で設定されている利用可能なすべての VTG リソースを表示できます。詳細につ

いては、「新しい VTG の追加」(P.5-9) を参照してください。

- PTT チャンネルを追加するには、[Channels Resources] 領域から [Participants] 領域に追加するチャンネル名をドラッグします。
- PTT チャンネル グループを追加するには、[Channels Resources] 領域から [Participants] 領域に追加するチャンネル グループ名をドラッグします。
- 無線チャンネルを追加するには、[Channels Resources] 領域から [Participants] 領域に追加する無線をドラッグします。



**(注)** オーディオ ループを回避するため、Cisco IPICS は、一度に 1 つの VTG だけでアクティブな無線チャンネルをサポートしています。

- ユーザを追加するには、[Users Resources] 領域から [Participants] 領域に追加するユーザ名をドラッグします。
- ユーザ グループを追加するには、[Users Resources] 領域から [Participants] 領域に追加するユーザ グループ名をドラッグします。
- VTG を追加するには、[Resources] 領域から [Participants] 領域に追加する VTG 名をドラッグします (VTG を別の VTG に追加すると、会議の会議が作成されます)。
- 検索したチャンネル、ユーザ、または VTG を追加するには、[Resources] 領域から [Participants] 領域にリソースをドラッグします。



**ヒント** 折りたたんだ [Channels]、[Channel Groups]、[Users]、[User Groups]、または [VTGs] リストを展開するには、リストの左にある矢印をクリックします。

ドラッグ アンド ドロップ操作を終了し、マウス ボタンを放すと、非アクティブ VTG に追加したリソースは、[Save] をクリックして変更をコミットするまで緑色で表示されます。緑色で表示されている項目を削除するには、[Participants] 領域から [Resources] 領域にそのアイテムをドラッグします。



**ヒント** VTG への変更を保存するには、[Activate VTG] ボタンをクリックする前に、[Save] をクリックしてください。[Save] をクリックする前に [Activate VTG] をクリックすると、変更が失われ、再入力する必要があります。





(注) VTG をアクティブまたは非アクティブにするには、Cisco IPICS サーバが RMS と通信する必要があります。RMS を利用できないときに VTG を非アクティブにすると、Cisco IPICS データベースで非アクティブ化は発生しますが、Cisco IPICS サーバが RMS との通信を再開するまで、RMS では反映されません。

- VTG から IDC ユーザを削除し、そのユーザが VTG に残されているチャンネルを監視している場合、そのユーザは、ユーザに関連付けられているチャンネルを介して、VTG に引き続き参加できます。
- ユーザまたはチャンネルが VTG に複数回表示される場合、そのユーザまたはチャンネルの表示を 1 つ削除すると、VTG からそのユーザまたはチャンネルのすべてのインスタンスが削除されます。
- [Participants] 領域でユーザ グループからユーザをドラッグして外に出しても、実際のユーザ グループは変更されません。
- VTG では、空の PTT チャンネル グループまたはユーザ グループは作成できません。グループが VTG に含まれ、そのグループからすべてのメンバをドラッグして外に出すと、そのグループは VTG から削除されます。
- 検索したチャンネル、ユーザ、または VTG を追加するには、[Resources] 領域から [Participants] 領域にリソースをドラッグします。



(注) 同じ VTG 内で、セキュリティで保護されたチャンネルと保護されていないチャンネルを混合させると、セキュリティで保護されていないチャンネルのユーザがセキュリティで保護されたチャンネルのユーザの声を聞けるため、この設定はお勧めできません。

## 新しい VTG の追加

VTG を追加する場合、VTG の名前を指定し、通常は、その VTG に参加するメンバを指定します。VTG は、保存後いつでもアクティブにできます。



(注) VTG をアクティブまたは非アクティブにするには、Cisco IPICS サーバが RMS と通信する必要があります。RMS を利用できないときに VTG を非アクティブにすると、Cisco IPICS データベースで非アクティブ化は発生しますが、Cisco IPICS サーバが RMS との通信を再開するまで、RMS では反映されません。

新規 VTG を追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。
- ステップ 2** [Add] をクリックします。
- ステップ 3** [VTG Name] フィールドに、VTG の一意の名前を入力します。  
この名前には、英数字、特殊文字、およびスペースを使用できます。
- ステップ 4** [Description] フィールドに、この VTG の説明を入力します。
- ステップ 5** [Status] フィールドで、VTG のステータスを確認できます。
- ステップ 6** IDC 属性を表示するには、[IDC] タブをクリックします。  
属性と関連付けの動作については、「[関連付け属性動作の概要](#)」(P.2-22) を参照してください。
- ステップ 7** [RX Mute During PTT] ドロップダウン リストから、次のいずれかの値を選択します。
- VTG : PTT が使用されている場合、VTG で RX (受信) が消音されます。
  - None : PTT が使用されている場合、どのチャンネルも消音されません。
  - All : PTT が使用されている場合、RX はすべてのチャンネルと VTG で消音されます。
- ステップ 8** IDC で音声アクティビティ検出 (VAD) を有効にするには、[Enable VAD] チェックボックスをオンにします。  
VAD が有効な場合、IDC は音声アクティビティを検出した場合だけ音声トラフィックを送信します。  
チャンネルと VTG で true (属性チェックボックスをオン) に設定すると、IDC で、チャンネルまたは VTG との通信中に VAD が使用されます。  
デフォルトでは、この属性は false (属性チェックボックスはオフ) に設定されています。
- ステップ 9** ラッチを有効にするには、[Allow Latch] チェックボックスをオンにします。  
ラッチ機能では、Cisco IPICS ユーザが PTT チャンネルをロックインできます。



(注) チャンネルと VTG で [Allow Latch] が true (属性チェックボックスをオン) に設定されている場合、ユーザは任意のチャンネルと VTG またはユーザと VTG の関連付けでラッチを使用できます。

デフォルトでは、この属性は false (属性チェックボックスはオフ) に設定されています。

**ステップ 10** [Listen Only] を有効にするには、[Listen Only] チェックボックスをオンにします。true (属性チェックボックスをオン) に設定すると、ユーザは、チャンネルを聞き取れますが、送話はできません。この属性は、IDC、IP 電話、ダイヤルイン、およびモバイルクライアントのユーザに適用されます。



(注) VTG にチャンネルだけが含まれ、ユーザが含まれていない場合、IDC で [Listen Only] を有効にしても効果はありません。ただし、VTG にユーザが含まれている場合、[Listen Only] を有効にすると、IDC 上の [PTT] ボタンはグレー表示されますが、IDC のチャンネルは [Listen Only] に設定されません。

**ステップ 11** IDC に表示される特定の色で VTG を一意に識別するには、[VTG] 色ドロップダウンリストから色を選択します。

**ステップ 12** VTG に IDC 地域を割り当てるには、[VTG IDC Region] ドロップダウンリストから地域を選択します。

**ステップ 13** VTG に参加者を追加するには、[Participants] タブをクリックします。

**ステップ 14** Cisco IPICS で設定され、この VTG の参加者として追加できる使用可能なリソースを表示するには、[Resources] 領域に表示される [View] ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。



(注) Cisco IPICS で設定されているユーザ、チャンネルまたは VTG の数が 100 未満の場合、リソースはドロップダウンリストに表示されます。設定されているリソース数が 100 を超える場合、検索機能を使用して表示する必要があります。検索機能の詳細については、「[検索ユーティリティの使用](#)」(P.5-36) を参照してください。

- Channels : Cisco IPICS で設定されている使用可能なチャンネルを表示するには、このオプションを選択します。

- Channel Groups : Cisco IPICS で設定されている使用可能なチャネル グループを表示するには、このオプションを選択します。



(注) ドロップダウン リストから [Channel Groups] を選択すると、[Search] ボタンがグレー表示され、検索機能は使用できなくなります。

- Radios : Cisco IPICS で設定されている使用可能な無線を表示するには、このオプションを選択します。
- Users : Cisco IPICS で設定されている使用可能なユーザを表示するには、このオプションを選択します。
- User Groups : Cisco IPICS で設定されている使用可能なユーザ グループを表示するには、このオプションを選択します。



(注) ドロップダウン リストから [User Groups] を選択すると、[Search] ボタンがグレー表示され、検索機能は使用できなくなります。

- Virtual Talk Groups : Cisco IPICS で設定されている使用可能な VTG を表示するには、このオプションを選択します。

**ステップ 15** 「非アクティブ VTG 管理のガイドライン」(P.5-7) の説明に従って、任意の数と組み合わせのリソースを VTG に追加します。



**ヒント** 折りたたんだ [Channels]、[Channel Groups]、[Users]、[User Groups]、または [VTGs] リストを展開するには、リストの左にある矢印をクリックします。



(注) VTG への変更を保存するには、[Activate VTG] ボタンをクリックする前に、[Save] をクリックしてください。[Save] をクリックする前に [Activate VTG] をクリックすると、変更が失われ、再入力する必要があります。

**ステップ 16** [Save] をクリックして、現在のウィンドウを終了せずに VTG を追加します。変更を保存しない場合は、[Cancel] をクリックします。

- ステップ 17** このウィンドウから VTG をアクティブにするには、[Activate VTG] をクリックします。

## VTG の変更

VTG の変更時に、名前の変更と、参加者の追加または削除を行うことができます。非アクティブ VTG はアクティブなイベントではないので、ユーザ間の現在の通信に影響を与えることなく変更を加えることができます。

VTG を変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Administration Console から、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。
- ステップ 2** [VTG Name] カラムで、変更する VTG の名前をクリックします。
- ステップ 3** VTG の名前を変更する場合は、[General] タブをクリックし、[VTG Name] フィールドに新しい名前を入力します。
- 名前には英数字、スペース、および次の中の任意の文字を含めることができます (.,-'#()/: )。
- ステップ 4** IDC 属性を表示するには、[IDC] タブをクリックします。
- 属性と関連付けの動作については、「[関連付け属性動作の概要](#)」(P.2-22) を参照してください。
- ステップ 5** [RX Mute During PTT] ドロップダウンリストから、次のいずれかの値を選択します。
- VTG : PTT が使用されている場合、VTG で RX (受信) が消音されます。
  - None : PTT が使用されている場合、どのチャンネルも消音されません。
  - All : PTT が使用されている場合、RX はすべてのチャンネルと VTG で消音されます。
- ステップ 6** IDC で音声アクティビティ検出 (VAD) を有効にするには、[Enable VAD] チェックボックスをオンにします。
- VAD が有効な場合、IDC は音声アクティビティを検出した場合だけ音声トラフィックを送信します。

チャンネルと VTG で true (属性チェックボックスをオン) に設定すると、IDC で、チャンネルまたは VTG との通信中に VAD が使用されます。

デフォルトでは、この属性は false (属性チェックボックスはオフ) に設定されています。

- ステップ 7** ラッチを有効にするには、[Allow Latch] チェックボックスをオンにします。ラッチ機能では、Cisco IPICS ユーザがチャンネルをロックインできます。



**(注)** チャンネルと VTG で [Allow Latch] が true (属性チェックボックスをオン) に設定されている場合、ユーザは任意のチャンネルと VTG またはユーザと VTG の関連付けでラッチを使用できます。

デフォルトでは、この属性は false (属性チェックボックスはオフ) に設定されています。

- ステップ 8** [Listen Only] を有効にするには、[Listen Only] チェックボックスをオンにします。true (属性チェックボックスをオン) に設定すると、ユーザは、チャンネルを聞き取れますが、送話はできません。この属性は、IDC、IP 電話、ダイヤルイン、およびモバイル クライアントのユーザに適用されます。



**(注)** チャンネルだけが含まれ、ユーザが含まれていない VTG の場合、IDC で [Listen Only] を有効にしても効果はありません。ただし、VTG にユーザが含まれている場合、[Listen Only] を有効にすると、IDC 上の [PTT] ボタンはグレー表示されますが、IDC のチャンネルは [Listen Only] に設定されません。

- ステップ 9** IDC に表示される特定の色で VTG を一意に識別するには、[VTG] 色ドロップダウン リストから色を選択します。
- ステップ 10** VTG に IDC 地域を割り当てるには、[VTG IDC Region] ドロップダウン リストから地域を選択します。
- ステップ 11** Cisco IPICS で設定され、VTG に参加者として追加できるリソースを表示するには、[Participants] タブをクリックします。
- ステップ 12** [Resources] 領域の [View] ドロップダウン リストで、次の条件から選択します。



**(注)** Cisco IPICS で設定されているユーザ、チャンネルまたは VTG の数が 100 未満の場合、リソースはドロップダウンリストに表示されます。設定されているリソース数が 100 を超える場合、検索機能を使用して表示する必要があります。詳細については、「[検索ユーティリティの使用](#)」(P.5-36) を参照してください。

- **Channels** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なチャンネルとチャンネルグループを表示するには、このオプションを選択します。
- **Channel Groups** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なチャンネルグループを表示するには、このオプションを選択します。
- **Radios** : Cisco IPICS で設定されている使用可能な無線を表示するには、このオプションを選択します。
- **Users** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なユーザを表示するには、このオプションを選択します。
- **User Groups** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なユーザグループを表示するには、このオプションを選択します。
- **Virtual Talk Groups** : Cisco IPICS で設定されている使用可能な VTG を表示するには、このオプションを選択します。

**ステップ 13** [ステップ 12](#) でビューを選択した後、VTG に参加者を追加するには、「[非アクティブ VTG 管理のガイドライン](#)」(P.5-7) を参照してください。



**ヒント** 折りたたんだ [Channels]、[Channel Groups]、[Users]、[User Groups]、または [VTGs] リストを展開するには、リストの左にある矢印をクリックします。

**ステップ 14** [Save] をクリックして、現在のウィンドウを終了せずに VTG を変更します。変更を保存しない場合は、[Cancel] をクリックします。



**(注)** VTG への変更を保存するには、[Activate VTG] ボタンをクリックする前に、[Save] をクリックしてください。[Save] をクリックする前に [Activate VTG] をクリックすると、変更が失われ、再入力する必要があります。

- ステップ 15** このウィンドウで VTG をアクティブにするには、[Activate VTG] をクリックします。
- 

## VTG の削除

VTG が必要なくなった場合、Cisco IPICS からそのユーザを削除できます。非アクティブ VTG を削除しても、その参加者には影響ありません。

アクティブ VTG に関連付けられている VTG は削除できません。そのような VTG を削除するには、まずアクティブ VTG を非アクティブにする必要があります。詳細については、「[VTG の再アクティブ化](#)」(P.5-34) または「[検索ユーティリティの使用](#)」(P.5-36) を参照してください。

1 つ以上の VTG を削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

- ステップ 1** Cisco IPICS Administration Console の [VTG Management] トレイから、[Virtual Talk Groups] をクリックします。
- ステップ 2** 削除する各 VTG の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [Delete] をクリックします。  
削除の確認を求めるダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** 削除を確定する場合は、[OK] をクリックします。  
VTG を削除しない場合は、[Cancel] をクリックします。



---

**ヒント** Cisco IPICS で設定されているすべての VTG を同時に削除するには、[Virtual Talk Groups] リストの上部になるチェックボックスをオンにして、[Delete] をクリックします。

---

## アクティブ VTG の管理

次の項からは、アクティブ VTG の管理について説明します。



- 「アクティブ VTG 管理のガイドライン」 (P.5-17)
- 「VTG のステータスの変更」 (P.5-18)
- 「アクティブ VTG での参加者の追加および削除」 (P.5-20)
- 「アクティブ VTG での IDC ユーザの消音または消音解除」 (P.5-22)
- 「参加者への通知とダイヤルアウト、およびアクティブ VTG の IDC 属性の設定」 (P.5-28)
- 「VTG の再アクティブ化」 (P.5-34)

## アクティブ VTG 管理のガイドライン

アクティブ VTG を管理している場合は、次のガイドラインに従ってください。

- アクティブ VTG に関連付けられているチャンネルが無効になると、そのチャンネルは VTG から切断されますが、そのアクティブ VTG の [Virtual Talk Groups] ウィンドウの [Participants] タブで、名前の隣に青い X またはテキスト ステータス、あるいはその両方が表示されます。
- 無効になったユーザまたはチャンネルが削除されると、対象の VTG から削除されます。
- ユーザ グループまたはチャンネル グループが削除されると、グループとそのメンバ (チャンネルおよびユーザ) が、対象の VTG から削除されます。
- ユーザがユーザ グループから削除されると、変更は自動的にユーザ グループに関連付けられている VTG に伝えられ、ユーザは切断され、対象の VTG から削除されます。そのユーザは、ユーザ グループ リストに表示されなくなります。
- 無効になったユーザが再び有効になると、ユーザは対象の VTG に自動的に接続されます。ユーザが SIP ベースの接続を介して接続されている場合、これらの接続をサポートするために適切な RMS リソースが割り当てられます。
- チャンネルがチャンネル グループから削除されると、変更は自動的にチャンネル グループに関連付けられている VTG に伝えられ、チャンネルは対象の VTG から切断されます。そのチャンネルは、チャンネル グループ リストに表示されなくなります。
- 無効になったチャンネルが再び有効になっても、チャンネルは対象の VTG で自動的に接続されません。チャンネルがもう一度有効になると、その VTG に、VTG を再びアクティブにするよう求める通知メッセージが表示されます。そのチャンネルを VTG に接続し、参加させるには、対象の VTG を再びアクティブにする必要があります。

- ユーザがユーザ グループに追加されたり、チャンネルがチャンネル グループに追加されたりしても、対象の VTG では何も発生しません。VTG でユーザ グループまたはチャンネル グループに対する変更を更新するには、ユーザ グループまたはチャンネル グループを VTG にドラッグする必要があります。ユーザ グループまたはチャンネル グループに追加されたユーザまたはチャンネルは、変更が保存されると VTG に接続されます。
- ユーザ グループまたはチャンネル グループのメンバであるユーザおよびチャンネルを、直接 VTG に関連付けることもできます。この場合、直接関連付けられたユーザおよびチャンネルの状態が、メンバユーザおよびメンバチャンネルの状態よりオーバーライドされます。たとえば、VTG に直接接続されているチャンネルが、チャンネル グループのメンバでもある場合、チャンネル グループに対する変更は、VTG 内でのそのチャンネルの接続ステータスに影響しません。
- アクティブ VTG は削除できません。まず、非アクティブにする必要があります。
- チャンネルは、一度に 1 つのアクティブ VTG に参加できます。アクティブ VTG に属しているチャンネルを別のアクティブ VTG に追加したり、チャンネルが属している別の VTG をアクティブにしたりしようとすると、そのチャンネルは 2 番目の VTG で使用不可として表示されます。
- Cisco IPICS サーバで障害が発生しても、アクティブ VTG はすべて中断なく続行されますが、VTG への変更やユーザの消音は行うことができなくなります。
- 高遅延の低帯域幅で接続している場合、各チャンネルまたは VTG のアクティブ化は 1 分半の間隔をおいて行ってください。

## VTG のステータスの変更

VTG のステータスは次のどちらかです。

- **Activated** : VTG の参加者は互いに通信できます。
- **Deactivated** : VTG のチャンネルは接続されていないため、VTG の参加者は互いに通信できません。

1 つの VTG または複数の VTG のステータスを一度に変更できます。

VTG をアクティブにすると、Cisco IPICS により、VTG 参加者が互いに通信するために必要なネットワーク リソースがコミットされます。



(注)

VTG をアクティブまたは非アクティブにするには、Cisco IPICS サーバが RMS と通信する必要があります。RMS を利用できないときに VTG を非アクティブにすると、Cisco IPICS データベースで非アクティブ化は発生しますが、Cisco IPICS サーバが RMS との通信を再開するまで、RMS では反映されません。

VTG は、ポリシーでアクティブにすることもできます。詳細については、第 6 章「Cisco IPICS ポリシー エンジンの使い方」を参照してください。

VTG をアクティブにすると、VTG はマルチキャスト プールからマルチキャスト アドレスを取得しようとしています。取得すると、各チャンネルおよびサブ VTG 用のリソースの取得を試みます（チャンネルは、このプロセス中保留状態になります）。VTG がマルチキャスト アドレスとリソースの取得に成功すると、VTG はアクティブになります。失敗した場合はアクティブになりません。



(注)

特に VTG に多くのチャンネル、ユーザ、他の VTG が含まれている場合、VTG をアクティブにしても、ユーザが互いに通信できるようになるまでに時間がかかることがあります。この遅延は、VTG の参加者数により、数秒から 1 分以上になります。

VTG を非アクティブにすると、VTG のチャンネルは相互接続しなくなります。VTG はいつでも非アクティブにできます。

VTG は、ポリシーでアクティブにすることもできます。詳細については、第 6 章「Cisco IPICS ポリシー エンジンの使い方」を参照してください。

VTG の現在のステータスを確認するには、[VTG Management] トレイにアクセスし、[Virtual Talk Groups] をクリックし、その VTG の [Status] カラムの情報を参照します。

VTG のステータスを変更するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- ステップ 1 Administration Console から、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。
- ステップ 2 次のいずれかの操作を行います。
  - [VTG Name] カラムで、VTG 名をクリックして VTG を表示します。

- VTG をアクティブまたは非アクティブにするには、[Activate VTG] または [Deactivate VTG] をクリックし、次に [Save] をクリックします。  
[Activate VTG] または [Deactivate VTG] ボタンは、[VTG Management] ウィンドウの下部に表示されます。ボタンの名前は、VTG の現在のステータスによって異なります。
- 変更する各 VTG の隣にあるチェックボックスをオンにし、[Change Status] ドロップダウン リストから必要な操作 ([Activate] または [Deactivate]) を選択します。

## アクティブ VTG での参加者の追加および削除

アクティブ VTG で参加者の追加または削除を行うことができます。

アクティブ VTG に参加者を追加しても、[Save] をクリックするまで、ネットワーク リソースはコミットされません。その時点で、Cisco IPICS により、既存の VTG 参加者が追加した参加者と通信するために必要なリソースがコミットされます。

アクティブ VTG に加えた変更は VTG に影響せず、VTG を非アクティブにしたとき保存されません。



(注)

保存後、変更が有効になるまで数秒の遅延があります。したがって、アクティブ VTG に追加されたユーザは、即座に聞き取りや通信を行うことができないことがあります。また、アクティブ VTG から削除されたユーザは、しばらく VTG に参加できることがあります。

アクティブ VTG に追加されたユーザには、次のような影響があります。

- IDC ユーザの場合、VTG を表す新しい PTT チャンネル ボタンが表示されます。
- LMR ネットワークのハンドヘルド無線ユーザの場合、無線チャンネルで新しい音声聞こえます。
- Cisco Unified IP Phone ユーザの場合、VTG を表す電話の [Services] > [IPICS] メニューに新しい選択肢が表示されます。

アクティブ VTG で参加者を追加または削除するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco IPICS Administration Console の [VTG Management] トレイから、[Virtual Talk Groups] をクリックします。
- ステップ 2** 参加者を追加または削除するアクティブ VTG のリンクをクリックします。
- ステップ 3** アクティブ VTG で参加者を追加または削除するには、[Participants] タブをクリックします。
- ステップ 4** このアクティブ VTG に参加者として追加できる、Cisco IPICS で設定されている使用可能なリソースを表示するには、[Resources] 領域の [View] ドロップダウンリストから、次の条件に従って選択します。



---

**(注)** Cisco IPICS で設定されているユーザ、チャンネルまたは VTG の数が 100 未満の場合、リソースはドロップダウンリストに表示されます。設定されているリソース数が 100 を超える場合、検索機能を使用して表示する必要があります。検索機能の詳細については、「[検索ユーティリティの使用](#)」(P.5-36) を参照してください。

- **Channels** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なチャンネルとチャンネルグループを表示するには、このオプションを選択します。
- **Channel Groups** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なチャンネルグループを表示するには、このオプションを選択します。



---

**(注)** ドロップダウンリストから [Channel Groups] を選択すると、[Search] ボタンがグレー表示され、検索機能は使用できなくなります。

- **Radios** : Cisco IPICS で設定されている使用可能な無線を表示するには、このオプションを選択します。



---

**(注)** オーディオ ループを回避するために、無線は一度に 1 つの VTG だけでアクティブにできます。

- **Users** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なユーザを表示するには、このオプションを選択します。
- **User Groups** : Cisco IPICS で設定されている使用可能なユーザグループを表示するには、このオプションを選択します。



(注) ドロップダウン リストから [User Groups] を選択すると、[Search] ボタンがグレー表示され、検索機能は使用できなくなります。

- Virtual Talk Groups : Cisco IPICS で設定されている使用可能な VTG を表示するには、このオプションを選択します。

- ステップ 5** ステップ 4 でビューを選択した後、VTG に参加者を追加するには、「[非アクティブ VTG 管理のガイドライン](#)」(P.5-7) を参照してください。
- ステップ 6** VTG から参加者を削除する場合は、各参加者を [Participants] 領域の外にドラッグします。
- ドラッグ アンド ドロップ操作を完了し、マウス ボタンを放すと、参加者は赤色に変化します。[Save] をクリックすると、VTG から完全に削除されます。参加者は、[Save] をクリックするまでは、VTG にそのまま参加できます。
- ステップ 7** 変更を確定するには、[Save] をクリックします。
- 変更を取り消すには、[Cancel] をクリックします。
- ステップ 8** VTG 参加者への通知またはダイアルアウトの設定や、IDC 属性の変更を行うには、「[参加者への通知とダイアルアウト、およびアクティブ VTG の IDC 属性の設定](#)」(P.5-28) の手順を実行します。

## アクティブ VTG での IDC ユーザの消音または消音解除

Cisco IPICS では、アクティブ VTG、またはユーザが参加しているすべての VTG で IDC ユーザを消音したり、消音したユーザの消音を解除したりできます。この機能は、ユーザが雑音の多い場所から参加している場合や、他の理由でそのユーザを消音する必要がある場合に便利です。

次のように、IDC ユーザの消音方法を選択できます。

- VTG の聞き取りを可能にして、送話できないようにする。
- VTG で送話も聞き取りも行うことができないようにする。
- チャンネルまたは VTG の聞き取りを可能にして、送話できないようにする。
- すべてのチャンネルまたは VTG で送話も聞き取りも行うことができないようにする。

消音機能は、IDC、IP 電話、ダイヤルイン、およびモバイル クライアントのユーザに影響を与えます。IP 電話ユーザの場合、ユーザが VTG または PTT チャンネルですでに送話している場合、その送話中、マイクロフォンは消音されません。さらに、PTT チャンネルでのユーザの送話はすべて 1 つの信号に混合されるため、PTT チャンネルで LMR ユーザのマイクロフォンを消音はできません。



(注)

ユーザ、チャンネル、および VTG には、それぞれの動作を制御する属性が設定されている場合があります。異なるリソースに同じ動作属性が設定されている可能性がある場合、ユーザを VTG に関連付け、ユーザの属性を変更すると、最終的な動作は、関連付けられた各リソースの属性設定によって決まります。

Cisco IPICS では、特定の関連付けの最終的な動作をオーバーライドできます。関連付けに含まれるユーザ属性を変更する場合、最終的な動作は、関連付けでのユーザの属性設定によって異なります。関連付けに含まれる属性の変更の詳細については、「[関連付け属性動作の概要](#)」(P.2-22) を参照してください。

アクティブ VTG でユーザを消音または消音解除するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- ステップ 1 Administration Console から、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。
- ステップ 2 消音または消音解除するユーザを含むアクティブ VTG のリンクをクリックします。
- ステップ 3 [Participants] タブをクリックします。



(注) 必要に応じて、[Active VTG Details] 領域のユーザ グループの隣にある矢印をクリックしてグループを展開し、個々のユーザを表示します。

[User Details] ウィンドウまたはアクティブ VTG の [Virtual Talk Groups] ウィンドウでユーザを消音または消音解除できます。

- ステップ 4 [User Details] ウィンドウでユーザを消音するには、[Participants] 領域または [Resources] 領域から消音するユーザをダブルクリックし、[User Details] ウィンドウで次のいずれかの操作を実行します。



(注) [Resources] 領域からユーザを選択した場合（アクティブ VTG に参加していないユーザ）、[User Details] ウィンドウで属性に加えた変更後の動作は、[Users] ウィンドウの [IDC] タブで属性を変更する場合と同じで、VTG には影響しません。VTG に参加しているユーザを選択した場合、[User Details] ウィンドウで属性を変更すると、属性はユーザと VTG の関連付けの値を採用し、その VTG だけに適用されます。関連付け属性の詳細については、「[関連付け属性動作の概要](#)」(P.2-22) を参照してください。

- ユーザがアクティブ VTG で聞き取りだけを行い、送話できないようにするには、[Listen Only] チェックボックスをオンにして、[Save] をクリックします。

アクティブ VTG の [Virtual Talk Groups] ウィンドウでは、IDC マイクロフォンが消音されたことを示すアイコンが、ユーザ名の隣に表示されます。この属性は、IDC、IP 電話、およびダイヤルインのユーザに適用されます。

- アクティブ VTG で、ユーザが聞き取りも送話も行うことができないようにするには、[Disable Audio] チェックボックスをオンにして、[Save] をクリックします。

この設定により、ユーザはこの VTG で無効になります。アクティブ VTG の [Virtual Talk Groups] ウィンドウでは、IDC スピーカーが消音されたことを示すアイコンが、ユーザ名の隣に表示されます。この属性は、IDC、IP 電話、ダイヤルイン、およびモバイルクライアントのユーザに適用されます。



(注) Cisco IPICS サーバの任意の場所から [Disable Audio] 機能を選択すると、無線を除く、すべてのエンドユーザデバイス（IDC、IP 電話、ダイヤルイン、およびモバイルクライアントのユーザ）のオーディオが無効になるので注意してください。

**ステップ 5** [Virtual Talk Groups] ウィンドウの [Participants] 領域でユーザを消音するには、消音するユーザの隣にあるチェックボックスをオンにして、次のいずれかの操作を実行します。

- [Participants] 領域の下部にあるドロップダウンリストから [Set Listen Only] を選択して、アクティブ VTG で聞き取りだけを可能にして送話できないようにし、[Execute] をクリックします。



IDC マイクロフォンが消音されたことを示すアイコンが、ユーザ名の隣に表示されます。この属性は、IDC、IP 電話、およびダイヤルインのユーザに適用されます。

- ユーザが、アクティブ VTG で聞き取りも送話も行うことができないようにするには、[Participants] 領域の下部にあるドロップダウン リストから [Disable Audio] を選択し、[Execute] をクリックします。



**(注)** Cisco IPICS サーバの任意の場所から [Disable Audio] 機能を選択すると、無線を除く、すべてのエンドユーザデバイス (IDC、IP 電話、ダイヤルイン、およびモバイルクライアントのユーザ) のオーディオが無効になるので注意してください。

この設定により、ユーザはこの VTG で無効になります。IDC スピーカーが消音されたことを示すアイコンが、ユーザ名の隣に表示されます。

**ステップ 6** [User Details] ウィンドウでユーザを消音解除するには、[Participants] 領域または [Resources] 領域から消音解除するユーザをダブルクリックし、[User Details] ウィンドウで次のいずれかの操作を実行します。

- ユーザがアクティブ VTG で送話も聞き取りもできるようにするには、[Listen Only] チェックボックスをオフにして、[Save] をクリックします。  
[Virtual Talk Groups] ウィンドウのユーザ名の隣にあるアイコンが消えます。この属性は、IDC、IP 電話、ダイヤルイン、およびモバイルクライアントのユーザに適用されます。
- ユーザがアクティブ VTG で送話も聞き取りもできるようにするには、[Disable Audio] チェックボックスをオフにして、[Save] をクリックします。  
ユーザは有効になり、[Virtual Talk Groups] ウィンドウのユーザ名の横にあるアイコンが消えます。
- [Close] をクリックして、[User Details] ウィンドウを終了します。

**ステップ 7** [Virtual Talk Groups] ウィンドウの [Participants] 領域でユーザを消音解除するには、消音解除するユーザのチェックボックスをオンにして、次のいずれかの操作を実行します。

- [Participants] 領域の下部にあるドロップダウン リストから [Unset Listen Only] を選択して、アクティブ VTG で聞き取りも送話もできるようにし、[Execute] をクリックします。  
ユーザ名の隣のアイコンが消えます。

- [Participants] 領域の下部にあるドロップダウン リストから [Enable Audio] を選択して、アクティブ VTG で聞き取りも送話もできるようにし、[Execute] をクリックします。

この設定により、この VTG でユーザが有効になり、ユーザ名の隣のアイコンが消えます。

[User Details] ウィンドウでのラッチ機能の有効化または無効化については、「[User Details] ウィンドウでのラッチ機能の有効化または無効化」(P.5-26) を参照してください。

## [User Details] ウィンドウでのラッチ機能の有効化または無効化

Cisco IPICS では、[User Details] ウィンドウで IDC ユーザのラッチ機能を有効または無効にできます。ラッチ機能は、ユーザがチャンネルをロックインする場合や同時に複数のチャンネルで送話する場合に便利です。

IDC 属性に対する変更は、[User Details] ウィンドウにどの場所からアクセスするかによって異なります。たとえば、アクティブ VTG に参加しているユーザに対して [User Details] ウィンドウを開くと、そのユーザの属性に加えた変更後の動作は、ユーザと VTG の関連付けの値によって異なります。アクティブ VTG に参加していないユーザの属性を変更した場合 ([Virtual Talk Groups] ウィンドウの [Resources] 領域のユーザ)、VTG ではなくユーザだけが影響を受けます。





(注)

ユーザ、チャンネル、および VTG には、それぞれの動作を制御する属性が設定されている場合があります。異なるリソースに同じ動作属性が設定されている場合があります。ユーザを VTG に関連付け、ユーザの属性を変更すると、変更後の動作は、関連付けられた各リソースに設定されている属性によって決まります。Cisco IPICS では、特定の関連付けの最終的な動作をオーバーライドできます。関連付けに含まれるユーザ属性を変更する場合、最終的な動作は、関連付けでのユーザの属性設定によって異なります。関連付けに含まれる属性の変更の詳細については、「関連付け属性動作の概要」(P.2-22) を参照してください。

IDC ユーザのラッチ機能を有効または無効にするには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Administration Console から、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。
- ステップ 2** ラッチ機能を有効または無効にするユーザを含むアクティブ VTG のリンクをクリックします。
- ステップ 3** [Participants] タブをクリックします。
- 
-  **(注)** 必要に応じて、[Active VTG Details] 領域のユーザ グループの隣にある矢印をクリックしてグループを展開し、個々のユーザを表示します。
- 
- ステップ 4** [User Details] ウィンドウでユーザのラッチを有効にするには、[Participants] 領域または [Resources] 領域からラッチを有効にするユーザをダブルクリックします。
- 
-  **(注)** [Resources] 領域からユーザを選択した場合（アクティブ VTG に参加していないユーザ）、[User Details] ウィンドウで属性に加えた変更後の動作は、[Users] ウィンドウの [IDC] タブで属性を変更する場合と同じで、VTG には影響しません。VTG に参加しているユーザを選択した場合、[User Details] ウィンドウで属性を変更すると、属性はユーザと VTG の関連付けの値を採用し、その VTG だけに適用されます。関連付け属性の詳細については、「[関連付け属性動作の概要](#)」(P.2-22) を参照してください。
- 
- ステップ 5** [Allow Latch] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [Save] をクリックします。
- ステップ 7** [User Details] ウィンドウで IDC ユーザのラッチを無効にするには、[Participants] 領域または [Resources] 領域からラッチを無効にするユーザをダブルクリックします。
- ステップ 8** [Allow Latch] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 9** [Save] をクリックします。



(注) 関連付けに含まれるユーザ属性を変更する場合、最終的な動作は、関連付けでのユーザの属性設定によって異なります。関連付けに含まれる属性の変更の詳細については、「[関連付け属性動作の概要](#)」(P.2-22) を参照してください。

ステップ 10 [Close] をクリックして、[User Details] ウィンドウを終了します。



(注) [Virtual Talk Groups] ウィンドウの [Participants] 領域のユーザのラッチを有効または無効にする方法については、「[参加者への通知とダイアルアウト、およびアクティブ VTG の IDC 属性の設定](#)」(P.5-28) を参照してください。

## 参加者への通知とダイアルアウト、およびアクティブ VTG の IDC 属性の設定

アクティブ VTG では、電子メール、ショートメッセージサービス (SMS)、またはポケットベル経由での参加者への通知、公衆電話交換網 (PSTN) または IP 電話を介して接続されたユーザへのダイアルアウト、対応

Cisco Unified IP Phone モデルでの指定メッセージの表示、選択した VTG 参加者の IDC 属性の有効化と無効化など、さまざまな操作を開始できます。

Cisco IPICS オペレータは、初めてユーザを作成するときにユーザ プロファイルを設定します。ユーザは、このプロファイルに通信プリファレンスを含む個人情報を入力し、管理できます。ユーザは、電子メール アドレスを含む通知プリファレンスとユーザへのダイアルアウト時に使用される電話番号の順序リストを含むダイアルプリファレンスを入力し、編集できます。



(注) ユーザ プロファイルで、ユーザは SMS およびポケットベルの連絡先情報を電子メール アドレス形式で指定できます。通知がこれらの電子メール アドレスに送信されると (SMS やポケットベルのプロバイダーによって)、テキストメッセージまたはポケットベルメッセージが送信されます。

通知操作を開始すると、ポリシー エンジンからユーザに自動的に電子メールが送信され、電子メール アカウント、SMS、またはポケットベルに転送されます。また、サポートされている Cisco Unified IP Phone モデルに指定されたメッセー

ジが送信され、選択した VTG の参加者全員に事前録音済みのプロンプトが再生されます。また、VTG に参加するようというテキスト通知が電話機に着信した場合、Cisco Unified IP Phone で再生するオーディオメッセージを送信するようにシステムを設定することもできます。ポリシー エンジンには、参加者の連絡先情報を、ユーザ プロファイルで設定された通知プリファレンスから取得します。ポリシー エンジンおよび通知操作の設定の詳細については、第 6 章「Cisco IPICS ポリシー エンジンの使い方」を参照してください。



(注)

ユーザ プロファイルの [Communications] タブで [Dial after sending notifications] チェックボックスがオンになっている場合、Cisco IPICS は、すべての電子メール通知を送信してから、ユーザ プロファイルで設定されているダイアルプリファレンスを使用して、参加者に電話します。

Cisco IPICS で設定されていないユーザに、通知を作成できます。詳細については、付録 B「Cisco IPICS を使用した外部通知」を参照してください。

選択した参加者へのダイアルアウトを開始すると、Cisco IPICS は、個々のダイアルプリファレンスで指定された番号を使用して、リストの最初の番号から参加者に電話をかけます。コールが成立した場合、Cisco IPICS はコールをアクティブ VTG に接続し、電話をかける作業を停止します。コールが成立しない場合、Cisco IPICS は、コールが成立するか、ダイアルプリファレンス リストの最後の番号に達するまで、リストの順番に従って電話をかけます。

ダイアルアウト操作が正常に完了した場合、参加者は Cisco IPICS にログインできます。アクティブ VTG ウィンドウを更新すると、ダイアルインした各ユーザに [Listening on Call] が表示されます。エラーが発生した場合、[Participants] ページには何も表示されません。ダイアルアウト操作のステータスを表示するには、ポリシー エンジンの [Policy Management] 領域で [Execution Status] を開きます。

参加者の接続方法 (PSTN、IDC など) と、PSTN を介して接続している参加者にダイアルアウトを開始した場合は、コール プロGRESS (接続中、接続済み、失敗) が表示されます。



(注)

接続方法とコールプロGRESS インジケータは、ウィンドウを更新した場合だけ更新されます。

選択した VTG 参加者の IDC 属性を設定および変更することもできます。これらの操作は、アクティブ VTG の [VTG] ウィンドウで実行します。

アクティブ VTG で操作を開始するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Administration Console から、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] ウィンドウに移動します。

**ステップ 2** 操作を開始するアクティブ VTG のリンクをクリックします。



**(注)** Cisco IPICS で VTG をアクティブにするには、「[VTG のステータスの変更](#)」(P.5-18) を参照してください。

**ステップ 3** [Participants] ペインの [View] ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- **All** : この VTG の参加者すべて (チャンネル、ユーザ、および他の VTG) を表示するには、このオプションを選択します。
- **Channels** : この VTG に参加しているチャンネルを表示するには、このオプションを選択します。
- **Radios** : この VTG に参加している無線を表示するには、このオプションを選択します。
- **Users** : この VTG に参加しているユーザを表示するには、このオプションを選択します。各参加者の隣に、ユーザの VTG への接続方法 (IDC、電話、またはチャンネル経由) を示すアイコンが表示されます。
- **Virtual Talk Groups** : この VTG に参加している他の VTG を表示するには、このオプションを選択します。

**ステップ 4** 特定の操作に含める参加者を選択するには、参加者の隣のチェックボックスをオンにします。



**(注)** たとえば、電話で接続されているユーザにダイヤルアウトして、このアクティブ VTG に参加するよう招待するには、それらのユーザの隣にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** ドロップダウンリストから、次のいずれかの操作を選択します。



(注) コール リソースを制限した場合、[Dial Participants] ではなく [Notify Participants] オプションを選択する必要があります。

- **Notify Participants** : 電子メールまたは指定のメッセージを通して、VTG 参加者をアクティブ VTG に招待するには、次のいずれかの操作を行います。
  - メッセージの主題を変更するには、[Subject] フィールドに、通知メッセージの主題行に表示するテキストを入力します。
  - メッセージの本文を変更するには、[Body] フィールドに、通知メッセージの主題行に表示するテキストを入力します。

通知は、電子メール メッセージ、SMS テキスト メッセージ、ポケットベル、またはサポートされている Cisco Unified IP Phone モデルの指定メッセージ経由で送信されます。Cisco IPICS は、電子メール アドレス、電話番号、および配信オプションを、ユーザや Cisco IPICS オペレータがユーザ プロファイルに入力した通信プリファレンス情報から取得します。



(注) Cisco Unified IP Phone の [Text Notification] 操作では、Cisco Unified Communications Manager の [SIP Configuration] メニューの [IP Phone Notifications] 領域のパラメータを設定する必要があります。手順については、「SIP の設定」(P.8-35) を参照してください。

- **Dial Participants** : 選択した参加者にダイヤルアウトして、アクティブ VTG に参加するよう招待するには、このオプションを選択します。ダイヤルアウトする参加者を選択すると、ポリシー エンジンユーザや Cisco IPICS オペレータがユーザ プロファイルに入力したダイヤル プリファレンス情報（電話番号など）を使用して電話番号を判断し、参加者に電話します。
- **Allow Latch** : この VTG 中に、選択した参加者に対してラッチ機能を有効にするには、このオプションを選択します。この操作を選択すると、選択した参加者は、チャンネルをロックインできます。
- **Disallow Latch** : この VTG 中に、選択した参加者に対してラッチ機能を無効にするには、このオプションを選択します。この操作を選択すると、選択した参加者は、チャンネルをロックできません。

- **Set Listen Only** : この VTG 中に、選択した参加者に対して聞き取り専用属性を有効にするには、このオプションを選択します。この操作を選択すると、この VTG で選択した参加者は、聞き取り（受信）は可能ですが、送話（送信）はできません。この属性は、IDC、IP 電話、およびダイヤルインのユーザに適用されます。
- **Unset Listen Only** : この VTG 中に、選択した参加者に対して聞き取り専用属性を無効にするには、このオプションを選択します。この操作を選択すると、この VTG で選択した参加者は、送話（送信）できます。
- **Enable Audio** : この VTG 中に、選択した参加者に対してオーディオを有効にするには、このオプションを選択します。この操作を選択すると、この VTG で選択した参加者はオーディオを使用できます。
- **Disable Audio** : この VTG 中に、選択した参加者に対してオーディオを無効にするには、このオプションを選択します。この操作を選択すると、この VTG で選択した参加者はオーディオを使用できません。



**(注)** Cisco IPICS サーバの任意の場所から [Disable Audio] 機能を選択すると、無線を除く、すべてのエンドユーザデバイス（IDC、IP 電話、ダイヤルインユーザ）のオーディオが無効になるので注意してください。

**ステップ 6** ステップ 5 で [Notify Participants] を選択した場合は、次のいずれかの操作を行って、IP 電話がテキストメッセージを受信したときに Cisco Unified IP Phone で再生するオーディオを添付または録音します。



**(注)** このフィールドは必須です。[Notify Participants] オプションを選択するときは、事前録音済みのオーディオを添付するか、または新しいオーディオを録音する必要があります。次のいずれかの必須操作を行ってオーディオメッセージを指定しないと、Cisco IPICS でエラーが表示され、それ以上操作を進められなくなります。

- テキスト通知にあわせて再生するオーディオ ファイルを添付するには、次の手順を実行します。
  - a. [Attach Audio] をクリックします。
  - b. [Select Prompt] ウィンドウが表示されたら、添付する .wav ファイルの名前の横に表示されているラジオ ボタンをクリックします。
  - c. [Select] をクリックします。





(注) オーディオ ファイルを添付する前に、必ず .wav ファイルかまたは .wav ファイルを含む .zip ファイルを、Cisco IPICS サーバにアップロードする必要があります。 .wav または .zip ファイルのアップロードの詳細については、「[カスタム スクリプト プロンプトのアップロード](#)」(P.8-18) を参照してください。

- テキスト通知にあわせて再生するオーディオを録音するには、次の手順を実行します。
  - a. [Record Audio] をクリックします。  
[Prompt Record] ウィンドウが表示されます。
  - b. [Language] ドロップダウン リスト ボックスから、プロンプトの .wav ファイルを保存する論理言語フォルダを選択します。スクリプトで指定された言語にかかわらずこのプロンプトをすべてのスクリプトで使用可能にするには、[Default] を選択します。
  - c. [Phone Number] フィールドに、システムがコールする電話番号を入力します。このフィールドには数字だけを入力します。このフィールドは必須です。
  - d. このフィールドには必ず数字だけを入力してください。SIP プロバイダーは、入力した番号へのコールをルーティングできる必要があります。
  - e. [Name] フィールドに、このプロンプトの .wav ファイルの名前を入力します (拡張子 .wav を含めます)。このフィールドは必須です。
  - f. (オプション) [Destination Folder] フィールドに、プロンプトを保存する論理フォルダの名前を入力します。
  - g. [Call] をクリックします。ダイヤル エンジンが指定した電話番号にコールします。
  - h. 電話に応答し、音声プロンプトに従ってテレフォニー ユーザ インターフェイス (TUI) にログインし、プロンプトを録音します。
  - i. [Call Completed] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

**ステップ 7** [Execute] をクリックします。

Cisco IPICS により、指定された操作が実行されます。

## VTG の再アクティブ化

VTG をアクティブにするときに、VTG が使用できないチャンネルがある場合、Cisco IPICS により、使用可能なチャンネルがアクティブになります。ルータ リソースが不十分な場合や他のアクティブ VTG によって使用されている場合、チャンネルを使用できないことがあります。

[Active VTG Details] 領域では、使用できない VTG チャンネルの右には青い X が表示されます。チャンネルを使用できない理由を参照するには、X 上にマウスカーソルを置き、ポップアップ表示されるツールチップを読みます。

VTG チャンネルが使用できない場合も、Cisco IPICS では、VTG をチャンネルなしで続行できます。また、使用できないチャンネルを取得し、VTG を再アクティブ化する操作も行うことができます。VTG を再アクティブ化すると、Cisco IPICS により、前に使用できなかったチャンネルが使用できるかどうかを確認され、使用できる場合は、アクティブ VTG に追加されます。こうすることで、VTG をアクティブにしたときに一部のチャンネルが使用できなくても、VTG を中断する必要はありません。

VTG を再アクティブ化するには、次の手順を実行します。


### 手順

- 
- ステップ 1** Administration Console から、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。
- ステップ 2** [VTG Name] カラムで、再アクティブ化する VTG をクリックします。
- ステップ 3** VTG で使用できないチャンネルとその理由をメモします。
- [Participants] 領域の使用できない各チャンネルの隣に青い X が表示されます。マウスカーソルを青い X の上に置いて、チャンネルを使用できない理由を確認します。
- ステップ 4** ルータ リソースが不十分なためにチャンネルを使用できない場合は、次の操作を実行して、追加ルータ リソースを解放します。
- 他の VTG からチャンネルを削除する。
  - アクティブな SIP ユニキャスト接続のユーザを無効にする。



**(注)** ルータ リソースの使用状況は、RMS ウィンドウのループバックに関する情報で確認できます。詳細については、「ループバックに関する詳細情報の表示」(P.2-70) を参照してください。

---

- ステップ 5** 他の VTG が使用しているためにチャンネルを使用できない場合は、次の操作を実行します。
- a. [Configuration] トレイで [Channels] をクリックします。
  - b. [Channels] リストで、チャンネル名のリンクをクリックするか、チャンネル名の隣のチェックボックスをオンにします。
  - c. [Associations] ボタンをクリックします。
  - d. [Virtual Talk Groups] タブをクリックします。
  - e. [Virtual Talk Groups] リストに表示されているアクティブ VTG を探し、[VTG Management] > [Virtual Talk Groups] に移動します。
  - f. [Channels] ウィンドウの [Virtual Talk Groups] タブに表示されていたアクティブ VTG を選択します。
  - g. [VTG Management] トレイで、もう一度 [Virtual Talk Groups] をクリックします。
  - h. [Virtual Talk Groups] リストで別のアクティブ VTG のリンクをクリックし、チャンネルがその VTG に参加しているかどうかを確認します。
  - i. チャンネルが参加者となっている VTG が見つかるまで、この手順を繰り返します。
- ステップ 6** チャンネルを [Participants] 領域からドラッグして外に出して [Save] をクリックして、アクティブ VTG の 1 つからそのチャンネルを削除します。
-  (注) この手順を実行する前に、チャンネルがこのアクティブ VTG で必要ないことを確認してください。
- ステップ 7** [VTG Management] トレイで、チャンネルが使用不可として表示されている元の VTG の名前をクリックします。
- ステップ 8** VTG に他の使用できないリソースが含まれている場合は、[ステップ 4](#)～[ステップ 6](#) を繰り返します。
- ステップ 9** [Reactivate VTG] をクリックします。

## 検索ユーティリティの使用

検索ユーティリティを使用して、PTT チャンネル、無線チャンネル、ユーザ、VTG を検索できます。検索ユーティリティは、個々の VTG の [Virtual Talk Groups] ウィンドウにあります。

検索後の結果は、[Resources] 領域に表示されます。



(注)

システムのリソース エントリ (VTG、チャンネル、ユーザ) が 100 未満の場合、[VTG Participants] タブの使用可能なリソース リストに事前に入力されます。100 を超えるリソースがある場合、空白のリソース リストが表示されるので、検索を実行して、内容を表示する必要があります。チャンネル グループとユーザ グループは、常に事前に入力されます。

検索ユーティリティを使用して、PTT チャンネル、無線チャンネル、ユーザ、VTG を検索するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco IPICS Administration Console の [VTG Management] トレイから、[Virtual Talk Groups] をクリックします。
- ステップ 2** チャンネル、ユーザ、または VTG を検索する VTG のリンクをクリックします。
- ステップ 3** [Participants] タブをクリックし、[Resources] 領域の上部に表示される [Search] リンクをクリックします。  
別の検索ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** このウィンドウの左上隅にある [View] ドロップダウン リストから、次のいずれかのオプションを選択します。
  - Channel : チャンネルを検索する場合は、このオプションを選択します。
  - Radio : 無線を検索する場合は、このオプションを選択します。
  - User : ユーザを検索する場合は、このオプションを選択します。
  - Virtual Talk Group : VTG を検索する場合は、このオプションを選択します。[Search] ウィンドウは、検索する項目に適切なフィールドが表示されるように調整されます。
- ステップ 5** 次のいずれかの操作を実行します。

- PTT チャンネルまたは VTG を検索している場合は、[Name] フィールドにチャンネルのテキスト文字列を入力します。

テキスト文字列には、チャンネル名または VTG 名をすべて入力することも、名前の中の連続する文字を入力することもできます。たとえば、**Fire West** という VTG を検索している場合、「fire」というテキスト文字列を入力すると、開始文字に基づく結果が返されます。

テキスト文字列では大文字と小文字は区別されません。



**ヒント** チャンネルを検索している場合は、[Ops View] ドロップダウンリストから ops ビューを選択して、チャンネルの ops ビューで検索することもできます。

ステップ 6 に進みます。

- 無線チャンネルを検索している場合は、次のどちらかまたは両方の操作を実行します。

- [Location] ドロップダウン リストからロケーションを選択します。
- 検索している無線のテキスト文字列を入力します。

ステップ 6 に進みます。

- ユーザを検索している場合は、次の一部またはすべてのフィールドに情報を入力します。

- [User Name]、[First Name]、[Last Name] : 検索しているユーザのテキスト文字列を入力します。

テキスト文字列では大文字と小文字は区別されません。

- [Location] ドロップダウン リスト : ユーザのロケーション。
- [Role] ドロップダウン リスト : ユーザの Cisco IPICS ロール。
- [Ops View] ドロップダウン リスト : ユーザが属する ops ビュー。

たとえば、ユーザ名の一部しか知らないけれども、そのユーザが **West Side** ロケーションのディスパッチャであることを知っている場合は、[User Name] フィールドに文字列を入力し、[Role] および [Location] ドロップダウン リストから [Dispatcher] と [West Side] を選択します。

ステップ 6 に進みます。

**ステップ 6** [Go] をクリックします。条件をクリアするには、[Clear Filter] をクリックします。検索条件と一致する項目が、検索ウィンドウの下部に一覧表示されます。



(注) ウィンドウ右上にある [Rows per page] ドロップダウン リストから、結果ページの 1 ページあたりに表示する PTT チャネル、無線チャネル、ユーザ、または VTG の行数を指定できます。結果ページ間を移動するには、ウィンドウ下部にある矢印をクリックし、[Go] をクリックします。

**ステップ 7** 必要なリソースを選択するには、各リソースの左側のチェックボックスをオンにします。

**ステップ 8** [OK] をクリックします。

[Search] ウィンドウが閉じ、個々の [VTG] ウィンドウの [Resources] 領域に検索結果が表示されます。

## VTG 管理のベスト プラクティス

Cisco IPICS は、組織のメンバに会議に参加する新しい機会を提供します。メンバの中には、PTT 通信の技術、規則、慣習に慣れていない人もいます。たとえば、PTT デバイスの使用経験や、無線ユーザとの大きな会議への参加経験のないユーザがいます。

ハンドヘルド無線ユーザの中には、特定の LMR チャネルで少数のハンドヘルドユーザと会話した経験が豊富なユーザもいます。そのユーザの LMR チャネルが VTG に組み込まれた場合、そのユーザは、これまでより大規模で多様な会議に参加することになります。

会議参加者、特にハンドヘルド無線で参加しているユーザにとって、会議が突然変化することがあります。たとえば、ユーザが、同じ部門の 1 人以上の無線ユーザと話しているときに、ディスパッチャが LMR チャネルを VTG に追加すると、ユーザにはまったく異なる声が聞こえます。

次のガイドラインは、Cisco IPICS の新規ユーザおよび経験豊かなユーザに役立ちます。

- ディスパッチャ専用の PTT チャネルを確立し、このチャネルをすべての IDC および VTG に追加します。Cisco IPICS ディスパッチャは、このチャネルを使用して VTG の変更を参加者に案内し、VTG でのユーザの追加や削除を認識してもらうことができます。
- 新しい IDC ユーザに、PTT 通信のエチケットを教えます。次の例を参考にしてください。

- 一部のネットワーク構成では、別のユーザが会話に加わると、1 人以上のユーザが聞き取り不能になることがあります。
- 手短かに発言し、受信インジケータを確認して、他のユーザの発言と重ならないようにしてください。
- 長く話す必要がある場合は、代わりの通信方法を検討してください。

